

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)中央林間計画 1工区 新築工事	階数	地上14F
建設地	神奈川県大和市下鶴間1612番1外	構造	RC造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	1,873 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年2月 予定	評価の実施日	2016年12月26日
敷地面積	16,087 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社長谷エコーホレーション
建築面積	4,337 m <sup>2</sup>	確認日	2016年12月26日
延床面積	35,621 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社長谷エコーホレーション



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> ・外壁に暖色系を取り入れて近接する建物との調和を意識した外観とし、街並みに配慮した。また周囲への圧迫感軽減のため、道路からセットバックした住棟配置とし、アルミ手摺や装飾角柱を用いて建物の分節化を図った。		
<b>Q1 室内環境</b> ・住戸の主開口面には庇(バルコニーを含む)及びカーテンレールを設置。 ・F☆☆☆☆・VOCの放出が極めて少ない部材を採用。	<b>Q2 サービス性能</b> ・劣化対策等級3取得予定。 ・各住戸に電話、CATV、インターネットに対応した回線を引き込む計画。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・神奈川県景観計画に適合した彩色とした。 ・大和市の基準以上の緑化面積を確保した。
<b>LR1 エネルギー</b> ・サッシに複層ガラスを採用。(空気層6mm) ・エコジョーズを採用し、エネルギーの有効利用を図るとともに、省エネ等級4相当を確保し建物の熱負荷抑制に努めた。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・内装の更新性に配慮し、二重天井、二重壁の採用。 ・共用部の給水管にステンレス鋼管を採用し、耐久性の向上を図った。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・住宅性能表示制度における省エネ等級4相当を満たす住宅を提供。 ・大和市の緑化基準を上回る緑化に努めた。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される